

09

Martinborough_NEW ZEALAND

Kusuda Wines

Pinot Noir Wairarapa

[クスダ・ワインズ・ピノ・ノワール・ワイララパ 現行は2005年 ¥7350(予価) ⑬]

NZに賭けるサムライ。 日本魂が見えるピノ。

このニュージーランド産ピノ・ノワールを造ったのは、日本人の楠田浩之さん。元は大手メーカーに勤務するサラリーマンだったが、ワイン造りたさに脱サラ。ドイツのガイゼンハイム大学で醸造学を学び、ニュージーランドに畑を借りて、ワインを造り始めた。奥様に長男、長女の4人家族。思い切った選択だと思っ

クスダ・ピノの初ヴィンテージは2002年。不思議なワインで色は淡いのに香りや味わいにはインパクトがあり、余韻にはオークの香ばしい風味。続く2003年は粘土質土壌の「c」と砂利質土壌の「g」の二本立てで登場。どちらも色から濃厚な性質で2002年とはえらく違った。そして3年目となる2004年。前年に借りていた畑の契約が切れ、この年は友人のカイ・シューベルトさんからブドウを買うことに。いやはや、ワイン造りはイバラの道だ。

で、その2004年。色は再び淡く、やさしい果実味。条件的に難しい年だったそうだが、かえってエレガントさは際立っている。

それでも飲みたいブルゴーニュ

Bourgogne_FRANCE

Clos Saint-Denis / Domaine Dujac

[クロ・サン・ドニ/ドメヌ・デュジャック 2002年 ¥18900 ⑥]

色は淡いのに味はギュッ。

完成したクスダ・ピノ(02年物)を初めて味わったのは、オーストラリアのシドニーでのこと。その時、即座に浮かんだのがデュジャックのワインだった。色は淡いのに、香りが華やかで、味に深みがある。それがデュジャックを連想させたのだと思う。

デュジャックはモレ・サン・ドニ村の大御所で、クロ・ド・ラ・ロッシュ、クロ・サン・ドニ、シャルム・シャンベルタン、ボンヌ・マール、エシェゾーと5つもの

特級畑を持つ。単なる村名モレ・サン・ドニから素晴らしいワインを造り、ヴィンテージごとのブレも少ない。これまでにガッカリさせられたのは、94年のエシェゾーくらいだ。

デュジャックのワインの色が決して濃くならないのは、ブドウを茎と一緒に仕込むせいだといわれている。淡くても長期にわたって持ちこたえるポテンシャルもある。著名なわりにジュヴェレやシャンボールのライバルほどお高くない。

